ヨコハマ市民まち普請事業
整備事例集 vol.3

ふ-しん【普請】「普く請う（あまねくこう）」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることに繋がっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

笑顔がキラリ、
みんなですすめた まち普請

ヨコハマ市民まち普請事業
整備事例集 vol.3
（平成19年度選考整備提案 整備事例集）

●発行　平成21年10月
横浜市都市整備局都市づくり部地域まちづくり課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL 045-671-2696 FAX 045-663-8641
●編集　特定非営利活動法人 アクションポート横浜
●デザイン　有限会社 USC 街・空間計画

まち普請

ヨコハマ人・まち -まちの人がまちをつくる-

あちこち・ドキドキ・ハマのまち 都市整備局

身近なまちづくりに役立つ無料のメールマガジン「ヨコハマ 人・まち」を読みませんか?
メールマガジンのご案内： http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiikimachi/hitomati/mailmn/mailmn.html

●まち普請ホームページアドレス● http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiikimachi/machibushin/

ヨコハマ市民まち普請事業
整備事例集 vol.3

CONTENTS

1 事業のあらまし

2 子どもたちのイマジネーションから生まれた「アートウォーク」
整備事例1　地元企業・地主と市民による安全・安心の道づくり

3 水をたたえる新しい地域の交流拠点
整備事例2　荒磯川源流の日本庭園・清流復活

4 瀬谷の新名所　桜と花の散歩道
整備事例3　境川上流河川沿い道路に桜並木の名所づくり

5 マーケット再建へ！ 元気が集まるイベント施設
整備事例4　地域に愛される浜マーケットを次世代に残していこう!

6 平成19年度選考整備提案グループの声

事業のあらまし

●「ヨコハマ市民まち普請事業」は、横浜市地域まちづくり推進条例に基づく支援策の一つとして、平成17年4月に始まり、平成21年4月で5年目を迎えました。

●この「ヨコハマ市民まち普請事業」とは、市民の発意とアイデアによる身近な地域の公共空間や私有地などの整備に関するまちづくりの提案を募集し、2回にわたる公開コンテストにより選考された提案に対して最高500万円の整備助成金を交付する制度です。整備場所又はその近くの在住者、事業者または土地・建物の所有者の3人以上のグループであれば誰でも応募することができます。

●平成17年度　7件、平成18年度　5件、平成19年度　4件、さらに平成20年度には4件の提案が整備対象として選考されており、平成21年度初期の段階で整備が完了した事業は16事業に至ります。

●今回ご紹介する平成19年度の事業では、10件の提案の応募があり、8つの提案が1次コンテストを通過、そして5つの提案が2次コンテストで整備対象提案に選考されました。残念ながら、整備途中において一つの提案の辞退がありましたが、平成20年度に3つの整備が、平成21年5月には残りの1提案も無事整備が完了しました。

●この事例集では、選考整備提案の整備結果をご紹介するとともに、提案グループのメンバーや地域の方々が整備を進める上で、規則や手続きの複雑さに悩み、試行錯誤を繰り返しながらも、行政や専門家の支援を受けつつ、共有した思いを実現するために、相談を繰り返し粘り強く推進した事業の成果をご報告させていただきます。

●自分たちのまちへの思いを自らが形にしていく「ヨコハマ市民まち普請事業」、みなさんも参加してみませんか。

平成19年度 ヨコハマ市民まち普請事業部会委員

卯月 盛夫　早稲田大学教授（建築・都市デザイン）
岡部 友彦　公募市民
河上 牧子　慶應義塾大学産業研究所共同研究員（都市政策・コミュニティ計画）
木下 勇　千葉大学教授（緑や子どもの環境デザイン）
嶋田 昌子　NPO法人横浜シティガイド協会理事（まちづくりNPO）
名和田 是彦　法政大学教授（公共哲学・コミュニティ論）
平岩 千代子　民間コンサルタント（NPO・企業・行政のコラボレーション）
安田 信雄　公募市民

事業の流れ（平成19年度）

自ら主体となって生活環境の整備をしたい住民グループ

［5/25～5/31］整備提案募集

［H19.6/23（土）］1次コンテスト開催

ヨコハマ市民まち普請事業部会（学識経験者・まちづくり実践者・公募市民）

［2次コンテストに向けた活動］
●活動助成金として最高30万円を交付
●専門家（NPO等）を紹介
●提案検討会の開催支援

［H20.2/2（土）］2次コンテスト開催

住民自ら整備・維持管理を実施
整備助成金として最高500万円を交付

整備事例1 地元企業・地主と市民による安全・安心の道づくり［港北区］

子どもたちのイマジネーションから生まれた「アートウォーク」

新羽地区では、平成3年にまちづくり協議会を設立し住工共存のまちづくりを進めてきました。しかし、地域の方々とのワークショップでは、未だ新羽は路地が暗い、汚いというイメージが強いことが分かり、そこで、市営地下鉄新羽駅からおよそ180メートル続く、夜間は暗く裏道的な水路敷きの歩行者用通路を、何とかみんなが安心して、安全に楽しんで歩けるようにしようと提案づくりが始まりました。はじめは、花壇を置こうとしましたが、行政からの許可がおりず、また長い花壇の水やりは大変だとの意見も出され断念。そんなときにアーティストとのコラボレーションによるアートウォークの提案が生まれました。

アートウォークづくりには、アーティスト浅井裕介氏と新羽小学校6年生によるコラボレーションで取り組みました。子どもたちは、アドバイスを受けながら「アート」創りに延べ10時間も熱中しました。体育館いっぱいに道路に見立てた黒い紙を敷き、この上に道路の白線などに使われる素材を使って、それぞれのイマジネーションから生まれる植物を増殖させました。そして、この白線をバーナーであぶって道路に定着させることでアートウォークが完成しました。新羽小学校の渡部校長先生は、「子どもたちがやったものが形になることはとても素敵だな。」とお話しされています。

ここには、防犯カメラや街路灯もつき、さびしい裏道が、子どもたちの夢をまとい、まちづくりへの未来へとつながる、明るい安全な道に生まれ変わりました。さらに、新羽十字路付近の道路拡幅用地を暫定的に利用して「花の里づくりの会」の協力でポケットパークも整備しました。

地元企業・地主と市民による安全・安心のみちづくり 整備概要

整備主体：新羽駅周辺街づくり協議会
整備場所：港北区新羽町1617～1623の水路敷き及び新羽町1618-3、4（新羽十字路道路拡幅用地）
整備内容：アートウォーク、防犯カメラ、ポケットパーク
竣工時期：平成21年3月
協力：㈲ヨネヤマプランテーション/トム通信工業㈱
花の里づくりの会/新羽小学校/㈱ユカ/浅井裕介
米山正勝/㈱櫻井淳計画工房

access map

（写真上）上空から見たアートウォーク。180メートルにもわたる長い裏道が夜も安心してと通ることができる明るい道に生まれ変わりました。
（写真右下）道路に見立てた黒い紙の上に素材を広げ作業をしている様子です。体育館をいっぱいに使って繰り広げられたワークショップは、とても長い時間でしたがみんな真剣に取り組み立派なアートが完成しました。
（写真左下）新羽交差点の道路拡幅用地を暫定的に利用して、花とベンチがあるポケットパークも整備しました。日常のお世話は、「花の里づくり会」の方々を中心に行っています。

水をたたえる新しい地域の交流拠点

整備事例2　荒磯川源流の日本庭園・清流復活［都筑区］

都筑区の茅ヶ崎公園、ここは荒磯川の源流にあたり整備当時美しい日本庭園があった場所です。しかし、池は土砂で埋まりその面影はありませんでした。ここに池を再生し新しい地域の交流拠点を作りたい、この思いが提案のきっかけでした。提案は、井戸を掘ってソーラーエネルギーを使い水をくみ上げ池を再生する計画です。

限られた予算の中で十分な整備を行うためにはとにかく自分たちで作業をしなければなりません。井戸掘りや水をくみ上げるポンプとその電源となるソーラーパネルの調達から設置までグループのメンバーで行いました。この池に合うソーラー発電装置とポンプの事例を研究したところ、日本には合うものがなかったのでアメリカからソーラーパネルとポンプを取り寄せました。井戸は提案グループのメンバーが掘り、池づくりは地域の子どもたちと一緒に行いました。粘土をこねて塗りつけ池の底の部分を固めていきました。

取り寄せたパネルの設置がまたひと苦労。英語の説明書を横目に、穴が合わない、パネルの向きが反対など、何回もやりなおし、やっとの思いで無事ポンプが回り水が出始た時には、一同一安心。

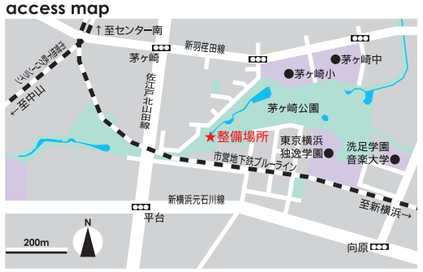
枯れ果てていた池は水をたたえ、荒磯川源流の復活です。池の横には昔ながらの手押し井戸ポンプを取りつけ、周辺の景観の良い場所にベンチも設置しました。

最近では、ここに植えてくださいと地域の方や施設などからミズバショウの苗などをいただくこともあるそうです。多くの人が集い、子どもたちがこの手押しポンプで水をくみ上げる、にぎやかな地域の拠点が誕生しました。

荒磯川源流の日本庭園・清流復活　整備概要

整備主体：茅ヶ崎公園・緑道愛護会
整備場所：都筑区　茅ヶ崎南1～3丁目
整備内容：池、井戸及びソーラポンプ、ベンチ及び掲示板
竣工時期：平成21年3月
協力：シップスレインワールド㈱

access map



(写真上)復元した池とその横に設置されたソーラーパネルと手押し井戸ポンプ。周囲にすっかり溶け込んでいます。
(写真中)手押し井戸ポンプも会のメンバーが組み立てて設置しました。池づくりに参加した子どもたちが心配そうに見守っています。
(写真下)池の底の整備は、子どもたちと一緒に行いました。粘土をこねてお団子を作り池の底にしっかりと塗りつけていきました。

瀬谷の新名所 桜と花の散歩道

整備事例3　境川上流河川沿い道路に桜並木の名所づくり［瀬谷区］

瀬谷区と大和市の境を流れる境川沿いの河川管理用通路、「ここに桜を植えて瀬谷区の玄関口にしたい」そんな思いでこの提案は始まりました。活動を始めると「鎌倉古道の民家の庭先にも植えたらどうか、海外では自宅の庭先へ木や花を植えて景観を整えている。」というアドバイスを地元の町会長さんから頂き、境川沿いと鎌倉街道沿いに河津桜やミカイドウ、カルミア合計151本を植える提案としました。

当初、「木を植えるだけなのでそんなに大変だとは思わなかったが、実際には自分の庭に植えるように簡単にはいかなかった。」と、グループのメンバーは振り返ります。

桜を植えたのは神奈川県の土地で、県から市が借り受ける必要があり、その上、この申請が大変。図面が必要で、隣接の土地所有者の同意をもらい、管理についての覚書まで作成しました。また、メンバーのほとんどがこの地域に住んでいなかったため、鎌倉古道沿いの方々の協力を得るのが難しく町内会長さんたちの協力がどうしても必要でした。そんなとき、この計画に早くから賛成してくれた中屋敷町内会の石井会長が、一緒に説明に歩いてくれたそうです。町内の方々は、「地元の人だから安心だ」と言ってくれたそうです。

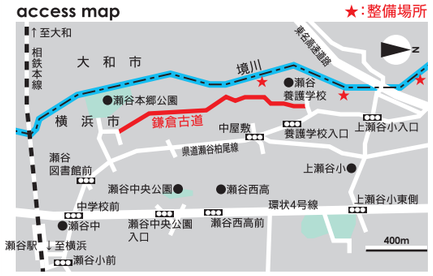
そして、何とかこぎつけた境川沿いでの植樹祭では、実行委員長の奥津町内会長さん、各町内会の皆さん、そして地域の未来を担う子どもたちを中心にして15本の河津桜を植えました。また、掲示板やベンチも設置し交流の場として活用できるようになっています。植樹された鎌倉古道と境川、きっとにぎやかな瀬谷の新名所となることでしょう。

(写真上)整備が完了した境川沿いの河川管理用通路。交流の場としても利用できるようにと河津桜に加えベンチや説明看板も設置しました。
(写真左下)境川沿いで行われた植樹祭。町会の役員の方々、小学校の生徒、普段散歩で訪れている子どもたちや地域の人など大勢の人が集まり桜を植えました。
(写真右下)植樹をしたみんなの思いを「桜の花」に書き留め、桜の木を描いたボードに張り付けました。「大きく育て!」「みんなで大切に育てます。」などたくさんのメッセージが寄せられました。

境川上流河川沿い道路に桜並木の名所づくり 整備概要

整備主体：境川沿いと鎌倉古道沿いに桜の名所づくり実行委員会
整備場所：瀬谷区内境川沿いと鎌倉古道沿い周辺地域
整備内容：境川堤防と鎌倉古道沿い民地に花木を151本植栽
（河津桜30本、ミカイドウ73本、カルミヤ48本）
竣工時期：平成21年3月
協力：小島造園㈱

access map　★：整備場所



ヨコハマ市民まち普請事業

平成19年度選考整備提案グループの声

整備途中には苦労だと思っていた、地域の多くの方々の合意を得たり、学校や町会などに参加・協力を呼び掛け、また、自らが汗をかいて整備に取り組んだことなどが、整備が進むにつれて財産に変わっていったそうです。ここでは、「まち普請」の活動を通じて地域の方々と交流が生まれたことによる喜び、苦労話や今後の抱負など、提案グループからのあれこれのメッセージをご紹介いたします。

新羽駅周辺街づくり協議会

●地域で意見交換をすると新羽は、路地が暗い、汚いというイメージが強かったが、アートウォークができたおかげでイメージが変わった。夜も明るくなった。
●何をやっても反対の人はいるが、話し合いができたことがよかった。また、街づくり協議会をアピールできた。
●経理処理などの書類が面倒だった。
●花壇を作った後の水やりが本当に大変。雨水利用も含めて考えるとよかった。

茅ヶ崎公園・緑道愛護会

●出来上がった庭園に朝から晩まで人が来て、池を眺めて楽しんでくれている。作ったものを周りの人たちが楽しんでくれているので、よかったと思う。
●地域だけの活動にとどまらず世の中に情報が発信されてしまう。
●茅ヶ崎公園という名前が売れた。
●都筑区の他のまちづくりの団体から声をかけられることも多くなり、人の輪が広がった。
●落ち葉対策や土砂対策が大変である。

商店街活性化×若者の働く場創出プロジェクト

●このプロジェクトができた事によって、商店街の再建への大きな一歩となった。
●火事の焼け跡がそのままになって何も使えない状態だったところがきれいに整備され、商店街を利用する人たちも何か新しい事が進んだという実感をしてもらえた。
●今まで商店街に足を運ぶことのなかった学生や子ども達、地域外からも様々な人たちが商店街を訪れるきっかけとなり、火事について、また商店街の役割についてなど、知ってもらう機会となった。
●子ども達と商店街の人たちが一緒にイベントを行い、異年齢の交流となった。
●苦労した点は建物を建てるまでに非常に多くの手続きや条件を踏まなければならず、大変時間がかかった。
●商店街にとっても土地の使用料や手続き料等の負担が大きかった。

境川沿いと鎌倉古道沿いに桜の名所づくり実行委員会

●合意が取れた後は、地域の古老や子どもたちが積極的にかかわってくれました。
●カルミアなど花を通じて交流する場ができたことは大変うれしい。瀬谷区の玄関に木を植えさせていただいたことで、春が楽しみである。
●大変だったことがそれを乗り越えるとよかったことになる。
●全体の3キロのエリアで、半分の本郷の地域とは全く交流がなかったが、まち普請で交流が生まれ人間関係が生まれた。

マーケット再建へ！ 元気が集まるイベント施設

整備事例4 地域に愛される浜マーケットを次世代に残していこう！［磯子区］

地域の人達のコミュニケーションの場として古くから愛されてきた浜マーケット。残念なことに平成19年、火事によってアーケード入り口付近の店舗が焼けてしまいました。

火事により分断されてしまった商店街をつなぎ、イベントを開催したり地域の人たちが憩えるようなスペースを設け商店街再建のきっかけにしようというのがこの提案でした。

しかし、買物客が通る通路は正式な道路ではなく、建築基準法上の問題で簡単には事業が進みませんでした。また、建物を建てる場所にある旧道を将来廃止することについて周りの土地所有者の同意を得たうえで、市からその道路敷の占用許可を取る必要もありました。

そんな悪条件のもとで行政や専門家の支援を受けながら粘り強く調整する一方、商店街の賑わいと元気を絶やさないように、地域の子どもたちなどと一緒にイベント施設の床に使うモザイクタイルの制作などをしながら、これらの困難を何とか乗り越え、やっと着工にこぎつけたのは当初の完成予定期限を過ぎた4月に入ってからでした。しかし、浜マーケットの復興に協力したいという若者たちや業者の方々など多くの協力を得て、僅か2週間という短い時間でこのイベント施設を完成させました。

焼跡の再建のめどは立っていませんが、今回整備された施設も利用して、浜マーケットは地域のコミュニケーションの場として今までどおりの賑わいを見せてくれることでしょう。

(写真上・中)完成したイベント施設。前後のマーケットをつなぐような形で焼失部分に建てられ、壁には様々なものを展示できるスペースが設けられています。完成式典では、フラダンスも披露されました。
(写真下)床部分のタイル貼りの作業。モザイクタイルを子どもたちも一緒になって貼りました。

地域に愛される浜マーケットを次世代に残していこう！ 整備概要

整備主体：商店街活性化×若者の働く場創出プロジェクト
整備場所：磯子区久木町20−4〜5
整備内容：イベント施設
竣工時期：平成21年5月
協力：㈱みかんぐみ/小島建設

access map